



海こひし潮の遠鳴り数へつつ少女となりし父母の家



与謝野晶子『新新源氏物語』上巻表紙
堺市博物館蔵

第6回

さかい与謝野晶子
青春の短歌大会

選歌集



与謝野晶子のプロフィール

与謝野晶子 [明治 11(1878)年 12月 7日 - 昭和 17(1942)年 5月 29日]

堺市甲斐町の菓子商駿河屋二代目鳳宗七とつねの三女として生まれました。本名は鳳(ほう) 志よう(晶子)。幼少期から帳場の手伝いのかたわら源氏物語に親しみ、大阪府立泉陽高等学校の前身にあたる堺女学校を卒業後は、詩歌の世界にめざめました。新しい詩歌の旗手であった与謝野鉄幹(寛)と出逢い、「明星」を代表する歌人として活躍し、第一歌集『みだれ髪』は石川啄木ら当時の文学青年たちに多大の影響を与えました。その後も「君死にたまふことなかれ」や多くの秀歌を発表し、「日本女詩人の第一人」として時代の頂点を極める存在になりました。

晶子は『春泥集』『夏より秋へ』などの詩歌集だけにとどまらず、小説集、童話集、評論集、歌論書のほかに『新新源氏物語』『新訳紫式部日記・新訳和泉式部日記』などの古典の現代語訳を刊行し、さらにヨーロッパから帰国後は、女性の自立と地位の向上をめざした評論活動、教育活動にも大きな功績を残しました。明治、大正、昭和という激動の時代にあって、すぐれた「先見性」と「国際性」をもって「表現者」として真摯に生きた晶子のメッセージには、21世紀を生きる私たちにも勇気と感動を与えるものがあります。

主催・・・与謝野晶子倶楽部、堺歌人クラブ、さかい利晶の杜
後援・・・大阪府、堺市、大阪府教育委員会、堺市教育委員会
特別協力・・・与謝野町、大阪府立泉陽高等学校、産経新聞社
協賛・・・センタラグランドホテル大阪、株式会社 黄金糖

奏でよう、言葉の音楽を

あらたに「さかい利晶の杜」が主催として加わった第6回「さかい与謝野晶子 青春の短歌大会」では、一万四千七百〇〇首をこえる多数の応募がありました。

晶子は歌を詠みはじめの人たちに、「歌は言葉の芸術であり、言葉の音楽です。」ということを強調しましたが、全国から寄せられた皆さんの短歌には、高校生の多感な心のときめきを奏でようとする意欲的な作品が多くありました。

どうかこれからも、自分らしい言葉の音楽によって、わが歌をうたいつづけてください。

今回も選者の今野寿美様、堺歌人クラブ会長の小西美根子様、与謝野晶子倶楽部運営委員の勺禰子様には、たいへんお世話になりました。後援、特別協力、協賛の関係各位にも、心から感謝申し上げます。

与謝野晶子倶楽部会長 太田 登



あなたに発明権のある歌を

二〇二〇年に第一回募集が始まった「さかい与謝野晶子 青春の短歌大会」、六回目の今回も、過去最多の前回とほぼ同数の一万四千七百十四首もの短歌が全国から寄せられました。晶子の名を冠するこの大会によって、初めて自分で短歌をつくってみた、という人も多いかもしれません。

その与謝野晶子は、一九三二（昭和七）年、読売新聞婦人短歌欄の選者になった際に、次の言葉を記しています。

「歌は言葉の芸術であり、同時に言葉の音楽です。（略）流行などは眼中に置かないで、ほんとうに発明権が皆さんにある歌のみを作ろうと御努力下さいまし。勿論選者である私などの歌を模倣なすってはいけません。私は自分の気の付かないような新しい詩的感情と、新しい言葉づかいとで出来た歌のみを喜んで採録致します。」

A I（人工知能）が日々進化し、人間より「出来の良い歌」を作る日はそう遠くないのかもしれませんが、しかし、歌をつくる楽しみや苦しみは、あなた自身の感情の中にしか生まれません。あなたに発明権のある歌を、つくり続けてください。

堺歌人クラブ 勺禰子（しゃく・ねこ）

第6回さかい与謝野晶子

青春の短歌大会

次 第

令和八年一月二十四日（土）於 さかい利晶の杜

表彰式 十三時三十分 一階茶室

と選評会 十四時五十分

講演会 十五時十分～十六時十分 一階茶室

テーマ…浪速風流・大阪巖屋の晶子さん

講師…今野寿美



大正期の晶子（文学院蔵）

第6回 さかい与謝野晶子 青春の短歌大会開催に際して

この度「第6回さかい与謝野晶子 青春の短歌大会」が無事開催の運びとなり、開催に際してご尽力賜りました関係者の皆様に、心から御礼申し上げます。また、今回14,716首もの作品が日本全国から晶子のふるさと・堺の地に寄せられましたこと、大変嬉しく感じております。短歌を通して、青春の1ページを見事に表現された皆様の豊かな才能と感性に大きく期待するとともに、今後の更なるご活躍を心からお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

さかい利晶の杜 館長 川口 愛

与謝野晶子の表現世界とその生き方に触れる

さかい利晶の杜 与謝野晶子記念館

『みだれ髪』にはじまる多くの詩歌集を出版し、また『源氏物語』の現代語訳や、社会問題、教育問題にかかわる評論活動まで行い、明治・大正・昭和という激動の時代にあつて、常に新しい世界に挑戦し、表現し続けた晶子の姿を紹介する文学館です。

さかい利晶の杜
Sakai Plaza of Rikyu and Akiko

〒590-0958 大阪府堺市堺区宿院町西2丁1番1号 TEL 072-260-4386
<https://www.sakai-rishonomori.com>



与謝野町は令和8年3月1日に合併20周年を迎えます

蕨村・礼蔵・鉄幹・晶子…
まちの文化が香りたつ、短歌と俳句の資料館

与謝野町立江山文庫

■開館時間
午前9時～午後5時（入館は4時半まで）

■休館日
毎週月曜日（祝日の場合は翌日）
年末年始（12/29～1/3）

■入館料
小・中学生100円 一般200円
団体（8名以上）は50円引き
歌会などに使える研修室もございます。

【企画展のお問合せ、団体見学のお申込はこちらへ】
〒629-2421 京都府与謝郡与謝野町字金屋1682
TEL 0772-43-2180 FAX 同
URL <http://www.kozan-bunko.sakura.ne.jp/>



目次

主催者挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・	1
第6回さかい与謝野晶子青春の短歌大会	
表彰式と選評会・講演会次第・・・・・・・・	2
さかい利晶の杜（主催者）、与謝野町	2
目次・・・・・・・・・・・・・・・・	3
短歌賞ヒストリー・・・・・・・・	3
選者紹介・・・・・・・・	3
選考経過・・・・・・・・	3
入賞作品・・・・・・・・	4
最優秀校・・・・・・・・	6
入選作品・・・・・・・・	7
}	10

短歌賞ヒストリー

全国を展望する恒久的な与謝野晶子顕彰事業として、第1回「与謝野晶子短歌文学賞」は堺歌人クラブ会長を実行委員長とし平成7年に堺市で開催されました。その後、平成15年の9回からは、産経新聞社主催で開催いただくことになりました。



泉陽高校にある「君死にたまふことなかれ」の詩碑

産経新聞社主催での与謝野晶子短歌文学賞が第24回をもって休止したことを受けて、与謝野晶子倶楽部と堺歌人クラブが堺市と連携し、令和の新时代に与謝野晶子の魅力を広く発信するため、青春の短歌に焦点をあて、新たに「第1回 さかい与謝野晶子 青春の短歌大会」を開催し、本年度第6回大会となりました。開催にあたり、産経新聞社と与謝野晶子の出身校である大阪府立泉陽高等学校には継続して協力をいただきました。令和5年度より、晶子の夫寛（鉄幹）の実父与謝野礼殿の生誕の地である与謝野町の協力をいただいています。

選者紹介

こんの 寿美氏



1952年東京都生まれ。歌誌「りとむ」編集人。宮中歌会始選者。昭和54年に「午後の草」で第25回角川短歌賞受賞。平成元年に「世紀末の桃」で第13回現代短歌女流賞、22年に「かへり水」により第37回日本歌人クラブ賞ほか。歌集に『若夏記』『龍笛』『さくらのゆゑ』など。「24のキーワードで読む与謝野晶子』『みだれ髪 訳注』『歌ことば100』『森鷗外―短歌という詩型に生涯愛情を持ち続けた文豪』など、与謝野晶子、「明星」をめぐる著書がある。

【総評】

高校生活になじんできた一年生、余裕をほの見せる二年生、受験とまっすぐ向き合う三年生。それぞれの心境が全体の多様さにつながり、時代も反映したたくましさ伝えていました。表現の軽やかさ、さすがに十代です。

選考経過

令和7年度の「第6回さかい与謝野晶子青春の短歌大会」では、高校生を対象に短歌の募集を行いました。募集は、6月2日から9月8日の期間で実施し、全国の高校53校、8,504名から14,714首のご応募がありました。北は秋田県から南は沖縄県まで全国の高校生からたくさんのお応募をいただきました。学校単位の団体応募は51校で、最多の投稿をいただいた高校は、1,491首でした。

選者については、1次選考を堺歌人クラブで行った上で、今野寿美氏に最終選考をお願いしました。上位10首並びに選者賞を入賞とし選評をいただくとともに、71首の入選歌を選んいただきました。また、複数の入賞や入選を果たした学校から最優秀校を決定いたしました。

大賞

はみ出した絵の具が君の手に触れて
二人の色に溶けはしないか



東京都立町田高等学校 石田 路昭

この度は、このような素晴らしい賞をいただけたことを大変光栄に思います。
昨今は、日本語の美しさや繊細さを感じるものが少なくなりつつありますが、その中でこそ発見できるものがあると信じてこれからも精進して参ります。

選評

想いがあふれて悟られそう、とあやぶみながら、この恋心、共有できるかもと強気の予想も。一首全体を比喩表現に託した語りが巧みです。

選者紹介

こんの 寿美氏



1952年東京都生まれ。歌誌「りとむ」編集人。宮中歌会始選者。昭和54年に「午後の草」で第25回角川短歌賞受賞。平成元年に「世紀末の桃」で第13回現代短歌女流賞、22年に「かへり水」により第37回日本歌人クラブ賞ほか。歌集に『若夏記』『龍笛』『さくらのゆゑ』など。「24のキーワードで読む与謝野晶子』『みだれ髪 訳注』『歌ことば100』『森鷗外―短歌という詩型に生涯愛情を持ち続けた文豪』など、与謝野晶子、「明星」をめぐる著書がある。

【総評】

高校生活になじんできた一年生、余裕をほの見せる二年生、受験とまっすぐ向き合う三年生。それぞれの心境が全体の多様さにつながり、時代も反映したたくましさ伝えていました。表現の軽やかさ、さすがに十代です。

選考経過

令和7年度の「第6回さかい与謝野晶子青春の短歌大会」では、高校生を対象に短歌の募集を行いました。募集は、6月2日から9月8日の期間で実施し、全国の高校53校、8,504名から14,714首のご応募がありました。北は秋田県から南は沖縄県まで全国の高校生からたくさんのお応募をいただきました。学校単位の団体応募は51校で、最多の投稿をいただいた高校は、1,491首でした。

選者については、1次選考を堺歌人クラブで行った上で、今野寿美氏に最終選考をお願いしました。上位10首並びに選者賞を入賞とし選評をいただくとともに、71首の入選歌を選んいただきました。また、複数の入賞や入選を果たした学校から最優秀校を決定いたしました。

与謝野晶子倶楽部賞

最後まで名前を呼ばれず終わった試合
だけど誰より声を出してた

大阪府立狭山高等学校 宮下 蓮

出番がないまま予備軍で終わった無念はともかく、冷静に試合運びを見て助言もメールも完璧だった（はず）。自己分析が頼もしい。

堺歌人クラブ賞

感情を知らないはずの彼らの詩スマホの
中の隣の青芝

北九州工業高等専門学校 秋吉 佑海

AIによる詩の出来栄にまずは感心しながら、つまり隣の芝生でしよ、と突き放す。自身の力量を省みる姿勢でもありますね。

さかい利晶の杜賞

君の名を言わずに済んだ一日がひとつの
コップ洗って終わる

大阪府立金岡高等学校 藤井 優成

秘めておきたい想いは今日も無事。安堵と寂しさないまぜの落ち着かない夜の気分をいう場面が、映像的效果をもたらしています。

堺市長賞

誰よりも孤独な場所のマウンドで背中で見せる俺のプライド
大阪府立いちいつ高等学校 後藤 翔

【選評】 マウンドに立つ投手の気概。上の句に覗かせた心理の繊細な一面に説得力があり、負けじ魂そのものの下の句を自然に導いています。

堺市教育長賞

偶然と奇跡の違いを知りたくて紙飛行機を南へ投げる
神奈川県立光陵高等学校 石井 桃李

【選評】 たまたまの一致、あるいは思いがけない理想的展開。どっちにしても稀は稀。せめて、と心は南へ、明るいほうへ。言い得ています。

大阪府知事賞

今はもう一人称の寂しさも昼の光も混ぜて笑える
神奈川県立光陵高等学校 植草 結良

【選評】 寂しさをいうにも明確な主体を意識して、それだけ自覚的だから結びの一語でこなせるのですね。内容、表現ともに聡明な印象です。

与謝野町長賞

夜の海泣きたいときに泣けぬまま鰯の群れにまぎれる夢は
大阪府立千里高等学校 小泉 志間

【選評】 今の環境、状況を思いきり暗いイメージで想定しながら、群れて巨大に見せる鰯のたくましさと同化しそうな。さばけています。

大阪府立泉陽高等学校賞

昼下がり畳でまどろむ風ゆるりしおりを挟む夢のはざままで
大阪府立千里高等学校 角張 莉央

【選評】 日本の夏の象徴的な快さ。細切れの夢も悪くないおまけでしょう。物語を愛おしむようにしおりを挟もうとする感覚が初々しいです。

産経新聞社賞

入道雲心の奥のざわめきとどちらが先に崩れてゆくか
学習院女子高等科 鈴木 千賀

【選評】 十代の心の奥には言いようのない不安や鬱憤、恋心が渦巻いている。入道雲の勢いと重ねるところが若さの証拠。強気でいきましよう。

最優秀校賞

大阪府立
いちいつ高等学校
(大阪府)



大阪府立いちいつ高等学校 「花咲く丘」

選者賞

答えより過程に迷う青春を数式以上に熱く解きたい

大阪府立いちいつ高等学校 松ヶ角 暖真

【選評】 過程点の評価が得られる試験といえはまず数学。解き明かす過程そのものに意味も価値もあるとする道理には学問の領域を超えた魅力を感じます。その過程に迷う青春ととらえた発想がすばらしい。「熱く」と添える心意気にも感心しました。

「また明日」手を振ることが寂しいと思えることは幸せなこと

東京都立町田高等学校 勝田 そら

【選評】 同じ場面を詠んだ歌は複数で寄せられましたが、この一首の主張にはひねりが感じられます。翌朝にはすぐまた会える友だけど、別れるときは一瞬、物足りなく寂しい。その感覚をさらに幸せと受けとめ直す自己肯定のさわやかさが、個性的な魅力となっています。

どんよりと空もころももりがちそんな日だって愛せよ自分

関西大倉高等学校 中山 里穂

【選評】 知識や交際範囲が広がる思春期には自信がもてず悲観的にもなりませんね。さらに体験を重ねることで誰しも成長してゆくわけですが、大切なのは自分を見失わないこと。短歌にぶつけるのも大いに有効。命令形を採用した明快な意思表示が絶妙で、嬉しい一首です。

【堺市長賞】 誰よりも孤独な場所のマウンドで背中で見せる俺のプライド

【選者賞】 答えより過程に迷う青春を数式以上に熱く解きたい

【入選】 青春をしたいと嘆く帰り道それが一番青春だった

笑い合うその横顔を遠くから見つめていたが手は届かない
夏休み朝昼晩とシャトル追うそんな私を宿題が追う
もう少し完成間近の絵を前に加筆する手が止まらないのだ

後藤 翔

松ヶ角 暖真

中井 陽詩

谷口 真矢

中村 優芽

木村 緋那

入選

知らぬふりできたら少し楽だった君のやさしさ知ってしまった
東邦大学付属東邦高等学校 平山 彩永

まだいけるまだ勝てるよと追いかけるぜったいあげないこの一点
東邦大学付属東邦高等学校 大井 ひなた

誰もいぬ昼の校舎を風がぬけチャイムだけ鳴る意味もなく鳴る
東邦大学付属東邦高等学校 高橋 夏樹

シトラスとミントの匂いむせかえる更衣室の中いつまでも夏
東邦大学付属東邦高等学校 山田 もも夏

少しでも一緒にいたいそれだけで良かった僕の不器用な夏
東邦大学付属東邦高等学校 川島 颯希

携帯の充電切れ暇になる時間も雲もスローに見える
大阪商業大学高等学校 塩山 慶次

青春をしたいと嘆く帰り道それが一番青春だった
大阪府立いちりつ高等学校 中井 陽詩

友の前言葉選びて嘘ひとつ心に潜む本音かくして
北九州工業高等専門学校 上田 彩人

また明日未来は明日の繰り返し知らない明日探しています
北九州工業高等専門学校 上野 紡

円運動^{シーク}に惑いコスモスの花と関数共に散りゆく
北九州工業高等専門学校 近藤 颯斗

海沿いを散歩するたび考える伊能忠敬ここにもきたか
大谷高等学校 岡 海夏人

マラソンの一番しんどい瞬間はゴール直前二十メートル
大谷高等学校 清水 美花

アルバムの中でしかもう話せない君は夢追う遠いまなざし
大阪朝鮮中高級学校 林 聖晋

たとえ今光が無くても咲いてやる雨でも風でも枯れずにきたから
大阪朝鮮中高級学校 韓 咲璃

強風に吹かれてなおもとんでいるとんぼはいまも僕らの手本
大阪府立金岡高等学校 中村 亮仁

スタートの笛が鳴るまで目を閉じて心の中で誰かを呼んだ
堺市立堺高等学校 松本 煌斗

宿題を机に置いて寝てしまう夢の中ではがんばっている
堺市立堺高等学校 権永 涼

笑い合うその横顔を遠くから見つめていたが手は届かない
大阪府立いちりつ高等学校 谷口 真矢

夏休み朝昼晩とシャトル追うそんな私を宿題が追う
大阪府立いちりつ高等学校 中村 優芽

もう少し完成間近の絵を前に加筆する手が止まらないのだ
大阪府立いちりつ高等学校 木村 緋那

期待したものではなかった三年間それでもきつと悪くはなかった
大阪府立布施高等学校 植田 実来

ラムネ瓶ビー玉片手にあなた言う取り出す前が綺麗だったと
大阪府立布施高等学校 織田 一伽

体力の限界が来た頃に咲く大量の花に皆立^{みな}ち止まる
大阪府立布施高等学校 太田 こころ

目を擦りシート開けば謎の文字我知らぬ間に宇宙と交信
北九州工業高等専門学校 松村 優花



放課後に自転車並べ語り合う夕日の色に未来を混ぜて
堺市立堺高等学校 沖田 璃央

構えれば景色が変わるこのポジション一球ごとに背負うもの増す
堺市立堺高等学校 西川 蒼

エラーしたあとのグラブを見つめてた誰も責めないそれがつらいよ
大阪府立交野高等学校 川隅 遥人

ただ走る見えないゴールを追い続けてその先にあるものを目指して
大阪府立鳳高等学校 野田 侑希

すみません迷子を探しているんです青春っていう子なんですけど
大阪府立鳳高等学校 橋野 夏恋

晴れの日も雨の日だって進んでくカゴのまがった僕の自転車
大阪府立鳳高等学校 松元 悠希

帰り道カーブミラーに映る私ときどき好きときどき嫌い
大阪府立鳳高等学校 谷原 愛

あの時の震えた声のその先は？晴れた空より青い気持ち
大阪府立鳳高等学校 中村 心奏

ひとりきりラムネを開けた音だけが夏の終わりを告げているよう
大阪府立鳳高等学校 和田 悠希

ごめんねとこぼれた君の声ののち残ったものは電話のノイズ
大阪府立泉陽高等学校 置田 莉久

迫りくる黄色の速球まだ取れぬ伸び代のみの僕らに期待

大阪府立泉陽高等学校 城戸 健太郎

終わらせぬこの一点に賭ける夏トスは誓いの弧を描いてく

大阪府立泉陽高等学校 橋本 和弥

夕暮れの盤に差し込む陽の光我に差し筋おしえたまえ

大阪府立泉陽高等学校 服部 奏真

靴ならば宿の玄関砂だらけ今日も一日全力だった

大阪府立泉陽高等学校 大野 友梨奈

数学や理科漬けの日々の社会とはサラダの中のリンゴのようだ

学習院女子高等科 安齋 綾花

塾帰り参考書より重いのは心のどこかのもやもやしたもの

学習院女子高等科 新井 真実

名前さえまだ知らないのに目が合っただけか今日から君を探している

須磨学園高等学校 安平 紗菜

目をこすり朝の静けさこじあけて四時の机に心を据える

須磨学園高等学校 田中 結

夏休みずっと自然にいたみたい時間は川で課題は山

大阪府立三國丘高等学校 上野 愛結

標本箱覗いてみればクスサンの眼状紋がこちらを見てる

大阪府立三國丘高等学校 木村 あかり

人生は山あり谷あり信号あり赤で止まらぬぼくらの春は

大阪府立三國丘高等学校 阪本 優芽

夏休み君に会えない日が積もる季節外れの大雪みたいに

大阪府立三國丘高等学校 藤田 佳弥

最後だと思えばすべてが輝いてあの日の声や柔らかな髪

石川県立穴水高等学校 大西 彩愛

またひとつ諦めることになるだろう ええ、でも、でも、メールをしよう

石川県立穴水高等学校 近藤 心雪

森林がしめりうるおう雨の日曜君にメールをしようか窓辺で

石川県立穴水高等学校 寺西 一真

かえりみち見えた花火はなによりもことしのなつをあざやかにした

大阪府立堺東高等学校 倉橋 一紗

慣性の法則みたいに走り出す止まれぬままに夏が過ぎてく

大阪府立狭山高等学校 沢井 零旺

きつとこの田舎ならではの閑寂が天の川を潤すのだろう

京都府立嵯峨野高等学校 石田 直人

環状線人の動きがはやすぎる京のリズムなにわで途絶える

京都府立嵯峨野高等学校 村田 実紀

最寄り駅近づくほどに眠くなるこの現象に名前をつけたい

京都府立嵯峨野高等学校 森 涼音

明日の朝待ち続けてた十八は目覚めてもまた何気ない日々

大阪府立泉北高等学校 川端 陽人

呢懇な先輩後輩科学部ベンゼン環より強いキズナで

大阪府立泉北高等学校 矢寺 佑輔

俗世から米が消えても目減り無し弁当に詰まる母の愛

柳井学園高等学校 中島 結良

少しずつ心ちぎれる日は多分いわしの群れに食べられている

仙台市立仙台高等学校 立花 雫

上映後スマホをひらきレビュー書くポップコーンはうまかった

茨城県取手第一高等学校 野口 和磨

青空にノートを閉じたその瞬間広がる夏が待っていたんだ

大阪府立農芸高等学校 奥村 海音

高校で見せない顔が普通になる地元の夏はほんとの自分

大阪学院大学高等学校 北治 結菜

「きいてみる？」そう言う君が手にしてた半分の音わたしにくれた

大阪府立住吉高等学校 大西 綾乃

あなたには知られたくないことばかりけどあなたのことはもっと知りたい

帝塚山高等学校 金城 和花

忘れようブルーハワイを流し込む少しは青くなれただろうか

帝塚山高等学校 飯田 結羽

人間の一番純粋な部分が童話と聞いて読むドグラ・マグラ

神奈川県立光陵高等学校 西村 祥太郎

路地裏の小さな主張落書きに散らかったモラトリアムの果て

神奈川県立光陵高等学校 太田 実来

敗北を噛みしめている私と違ううつつうしいほど光る太陽

大阪府立富田林高等学校 池田 隼

目の前を通りすぎてく特急に映る姿は十五の私

関西大倉高等学校 小松 柚月

気がないのに僕にほほえむあの人を女神か悪魔何と呼ぼうか

関西大倉高等学校 孟 子傑

ペランダで彼女が吐いた白い息ため息なのかペチュニアなのか

関西大倉高等学校 深野 早絢

すいこんだ朝の空気をフルートへ一番乗りの音楽室で

関西大倉高等学校 鈴木 穂乃花

